

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2020.12.15 No.397 東京・羽村平和委員会発行

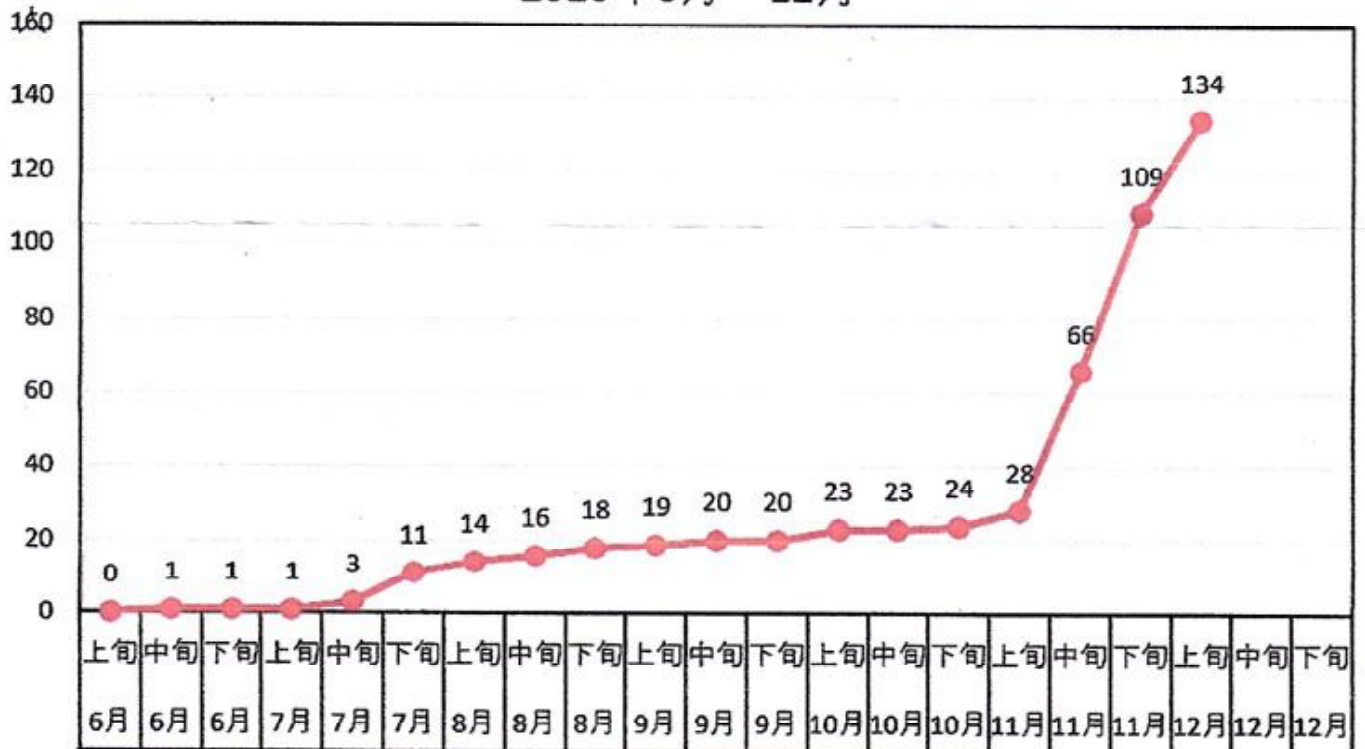


米軍横田基地コロナ感染者急増 基地従業員5人含む

グラフは
不破修さん

米軍横田基地コロナ感染者累計人数

2020年6月～12月



201124 横田の C130J が 22 日アンダーセンで、24 日パラオで F22 にホット給油
横田 374 通信中隊もともに展開



2004年飛行中 燃料放出3リットル

2006年(平成18年)4月8日(土曜日) 言説

米軍横田基地所属のC-130輸送機が基地周辺の多摩川上空を飛行中に燃料の一部を放出したとし、基地問題を担当する都企画調整理課は7日、同基地に対し説明を求めた。

この輸送機が燃料を放出したのは6日午前10時15分ごろ。羽村市内の多摩川上空で、翼の先から白い雲状のものを発生させながら旋

横田輸送機 飛行中に燃料放出



燃料を放出しながら多摩川上空を飛行するC-130輸送機(川島さん撮影)

回しているのを、同市在住のフリージャーナリスト、川島憲治さんが見つけ、写真撮影した。

同基地は放出の事実を認めただ上で、その量は3リットル以下だとしている。輸送機は日常的な訓練飛行中で、正常に飛行し、滑走路に進入する最中だったという。

放出の理由については「燃料タンク内の圧力を調整するため、燃料の一部を

気化させて放出したものであり、機体のトラブルではない」と説明。また、燃料は空中で完全に消散し、環境や健康への影響はないとしている。

同課は、状況がよく分からないとして、同基地に、放出の詳しい理由や、他航空機でも同様に放出が行われているのかなどを確認するよう求めた。

2016年9月
飛行中のC130から
9000kg放出
黙っていた、酷いね!



迅速戦闘支援施設となる横田基地の建物(読者提供)

横田拠点に迅速展開

米空軍 アジアで作戦準備

在日米軍横田基地(福生市など東京都多摩地域5市1町)を米空軍の戦闘機などをインド太平洋地域へ緊急展開させる拠点として強化する動きが強まっています。住民団体から「日本を米軍の出撃拠点として強化するもので許せない」と批判が上がっています。

11月9、10両日、横田基地の米第5空軍司令部は、第374空輸航空団(横田)、第35戦闘航空団(三沢)、第18航空団(嘉手納)の参謀らを集めた初の「迅速戦闘運用(Agile Combat Employment-ACE)」会議を開きました。

ACEは、インド太平洋地域での緊急事態に、米空軍の戦闘部隊とともに輸送機で支援部隊、物資などを迅速・柔軟に運ぶ新たな構想です。施設の整っていない飛行場からも戦闘作戦を可能にします。会議は、この構想を各部隊に徹底する目的でした。

住民団体から批判あがる



横田基地のC130輸送機や嘉手納基地のF15戦闘機などが行った輸送機からの給油訓練=10月16日、沖縄・普天間基地(米国防総省動画画像配信サービスVIDDS)

第374空輸航空団の参謀部長は会議について「ポールを前へ進め、航空団横断的な枠組みの構築、将来

必要となる日米二国間のパートナーの一体化でも第一歩となる」と(横田基地ニュース11月17日付)と述べ、日本をいっそう米軍の戦略に組み込む内容となりました。

ACE構想は2017年3月に当時の米太平洋空軍司令官が提唱。最新鋭ステルス戦闘機F22ラプターを支援部隊と一体で72時間以内に緊急展開させる「ラピッド・ラプター」態勢を、他の戦闘機や爆撃機まで拡大したものです。

今年、日本や韓国の基地で、輸送機を燃料タンクとして戦闘機に直接給油するなどの訓練を実施。9月には航空自衛隊千歳基地(北海道)で自衛隊も参加した。

横田基地の撤去を求める西多摩の会の高橋英枝子代表は、「横田基地は飛行回数が増え、訓練も激化しています。6月には陸海空の特殊作戦部隊が集まり演習し、事故も頻発しています。空軍特殊作戦機CV22オスプレイは現在5機ですが、24年には10機になります。新たに迅速戦闘支援施設もできる。こんな危険な横田基地は、撤去しかありません」と話しています。